

# 輝く介護

第 19 号  
10 周年記念特別号

2010 年(平成 22 年)  
3 月 9 日発行

特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構  
連絡事務所 〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内  
TEL0467(46)0788 Fax0467(46)0059  
<http://www.kamashien.com> e-mail [jimu@kamashien.com](mailto:jimu@kamashien.com)

## 地域のパワーを協働でつなぐ地域包括ケアシステム鎌倉型を創ろう

かまくら地域介護支援機構 理事長 樽井 彰子

介護保険制度がスタートしてまもなく 10 年を迎えます。制度がスタートしたとき、住み慣れた家で暮らし続けたいと願う高齢者は、在宅を重視する介護保険にホッとして、実際に、サービスを利用する高齢者が増えました。

しかしながらこの 10 年で、高齢者を取り巻く状況は大きく様変わりしています。高齢者のみの世帯が増え、主たる介護者に女性が多いことは当然ながら、男性の介護者が倍増しています。一方、鎌倉市が行った市民意向調査でも施設入所の要望が高くなっていますが、現実には特別養護老人ホームの需要に見合うだけの確保は難しい状況です。

ところで、高齢者は施設や病院で最期の時を迎えたいと本音で考えているのでしょうか？在宅で、その人らしく安心してケアが受けられるのであれば、やはり多くの方は住み慣れた我が家、わが町で最期の時を迎えたいのではないのでしょうか。とはいっても、介護保険のみでは高齢者の生活を支えていくのは難しいということがわかってきました。

そこで登場したのが「地域包括ケアシステム」という考え方です。高齢者介護研究会(厚労省 2003 年)によれば、「個々の高齢者の状況やその変化に応じて、介護サービスを中核として様々な支援が継続的かつ包括的に提供される仕組み」と定義されています。

『地域包括ケアシステム鎌倉型』は、鎌倉に暮らす高齢者が、生活に対する不安や危険を感じたとき、自分の意志で、医療や介護サービスだけでなく地域の福祉サービスも含めて、様々な生活支援サービスを日常生活の場で受けられる仕組みです。

いよいよ団塊の世代がすべて高齢期に突入する 2015 年が目前になって来ました。このシステムが有効に稼動するには、医療や福祉の専門職集団とともに、日常生活に必要な買い物や外出、心豊かに過ごすための様々な生活支援サービスを鎌倉の元気な高齢者層が協力して働き合う仕組みを創り出すことが必要です。

支援機構では、今後、『地域』をキーワードに、医療と福祉の現場のみならず、鎌倉に暮らす市民とのネットワークづくりを重点課題として取り組んでいきたいと考えております。



### かまくら地域介護支援機構に期待するもの

鎌倉市長 松尾 崇

この度、かまくら地域介護支援機構が設立 10 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、積み重ねてこられたこれまでの実績に対しまして、改めて敬意を表させていただきます。

介護の問題を解決するためには、高齢者のみならず、家族・地域・事業者そして行政が、互いに連携を図ることが必要であると考えています。この支援機構は市民・事業者・行政の三者が協働して立ち上げた、鎌倉独自の仕組みであります。この三者が共通の課題に取り組むことで、市民の皆様が安心して利用できる介護環境をつくっていかうとするものです。

介護に対するニーズも多様化してきておりますが、今後も市民にとって使いやすく、質の高いサービスを提供できますよう、皆様には、各方面でのいっそうのご活躍を期待いたしております。

# 介護保険制度と今後の高齢者の暮らし

鎌倉市地域包括支援センター運営協議会委員長 太田 貞司

『かまくら地域介護支援機構』創設 10 年。この間の取り組み、本当にご苦労様です。鎌倉に介護保険制度が定着したのも、ケアマネジャー支援、医療と介護・福祉のネットワークづくりの取り組みなど『支援機構』の取り組みがあつてこそ、と思います。私もこれまで多くのことを鎌倉で学び、他の地域の取り組みに参考にさせていただいてきました。



最近、「介護保険制度創設 10 年」とよく言われます。それは、わが国の社会の中に介護保険が制度としてすっかり定着したと同時に、いろいろな課題も出てきて、2025 年には「団塊」世代が後期高齢者となるなど、高齢化率 40%の社会が間近に迫る近未来の社会を据えて、もう一度、日本の社会のあり方、介護保険制度のあり方を考えようという意味でもあるように思います。介護サービスと地域の様々な「資源」をどのように結び付けていくのが重要となっているのではないのでしょうか。

県内でも高齢化が進む鎌倉で、誰もが老後を安心して安全に暮らせる、そして尊厳をもち、自立した生活ができるように支援する仕組みづくりが、ますます重要になってきていますが、鎌倉には、「人」という豊かな「資源」があるように思います。「人」がうまく結びつけば、他のモデルになるような鎌倉らしい“仕組みづくり”ができそうに思います。『かまくら地域介護支援機構』の役割を今後も大いに期待しております。

## かまくら地域介護支援機構 10 周年を記念して

かまくら地域介護支援機構前理事長 白井 京



「かまくら地域介護支援機構」10 周年おめでとうございます。

「日本でも介護保険が始まるようだ」という噂が流れたのは 97 年頃だったでしょうか。市民グループ連絡会等で会合のある毎にその話題となりました。当時、人里はなれた老人ホームで悲惨な事件が報道されていたので営利本位の事業者が参入しないか、市の高齢者福祉課の方にも私たちの不安を訴えていました。「女性の介護」から「介護の社会化」への趣旨には賛成でも内容には心配があり、私自身、夫の介護に明け暮れの状態であったので、祈るような気持で介護サービスの質の問題を考えていました。

99 年、市の広報に「かまくら地域介護支援機構」の発足と市民委員の公募が載り、私は早速応募しました。オンブズマンとは違い<事業者・市民・保険者(鎌倉市)が連携し話し合い、介護保険利用者が安心して良いサービスを受けられるように努力する>という趣旨に賛成できたからです。当初は機構の理解周知に苦労しましたが、皆さんの努力が実り、最近はその存在を期待されるまでになりました。

『やって貰う』から『皆で支えあう』介護サービスにしていくためには、これからの道のりは遠く支援機構の役割は重いですが、樽井現理事長を中心とした皆さんのこれからのご活躍を心からお祈りいたします。私も力はありませんが陰ながら応援させて頂きたいと思っております。

### かまくら地域介護支援機構の 10 年

- |              |  |
|--------------|--|
| 平成 11 年 11 月 | 任意団体として発足。居宅介護支援事業所マップ発行。                            |
| 平成 12 年      | 事業者部会、情報提供部会、サービス評価部会、苦情相談室設置。<br>事業者ダイレクトリー介護Das 発行 |
| 平成 13 年 6 月  | 鎌倉ケアマネ連絡会発足  |
| 平成 14 年 9 月  | 特定非営利活動法人格取得   |
| 平成 14・15 年   | 全国社会福祉協議会研究事業  |
| 平成 18 年      | 独立行政法人福祉医療機構助成事業                                     |
| 平成 21 年 9 月  | 創立 10 周年   |



# 支援機構の歩み

## ～10年間の活動記録～

かまくら地域介護支援機構は、介護保険制度の導入にあたり制度が円滑に運用されるようにと、保険者である鎌倉市と、利用者である市民、サービス提供事業者が協働して1999年(平成11年)に設置されました。支援機構では、介護保険サービスの利用者が質の高いサービスを安心して受けられるように、介護サービス情報の提供、サービス提供事業者間のネットワークづくりなどに取り組んできました。2002年(平成14年)9月からは特定非営利活動法人の認証を受けています。支援機構発足10周年にあたり、これまでの活動を振り返ってみましょう。

### 利用者などへの情報提供のために

#### 『輝く介護』の発行

かまくら地域介護支援機構の活動や介護保険制度・サービスに関する情報をお知らせする機関誌として『輝く介護』を2002年11月から発行しています。バックナンバーはホームページでご覧になれます。



# 輝く介護

| 号・発行日               | 主な掲載内容  |
|---------------------|---|
| 創刊号<br>平成14年11月1日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしのまちの介護保険」老後を安心して委ねられる制度へ(理事長 白井 京)</li> <li>・利用者満足度調査(平成13年度実施分)</li> </ul>   |
| 第2号<br>平成15年6月9日    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーに期待するケアプランづくり-ケアマネジャーの重要性</li> <li>・最近の情報「介護保険スタート後 初めての制度見直し」</li> <li>・施設紹介「老健ぬかだ」</li> </ul>                                      |
| 第3号<br>平成15年12月5日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2005年の高齢者介護」を考える(渡邊武二) ・市民公開講座報告</li> <li>・施設紹介「介護老人保健施設 かまくら」</li> </ul>  |
| 第4号<br>平成16年6月7日    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座「実際に見て触って体験して-住宅改修・福祉用具説明会より」</li> <li>・平成15年度介護保険サービス利用者アンケート結果の概要</li> <li>・施設紹介「鎌倉清和由比」</li> </ul>                                 |
| 第5号<br>平成16年12月7日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の力を結集しましょう～鎌倉市地域福祉計画の策定から～</li> <li>・かまくら介護・なび リニューアルオープンしたホームページの紹介</li> <li>・鎌倉ケアマネ連絡会の紹介</li> <li>・施設紹介「グループホーム 虹の家」</li> </ul>        |
| 第6号<br>平成17年6月10日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなに増えました！ 要支援・要介護1の認定者</li> <li>・平成16年度介護保険サービス利用者アンケート結果の概要</li> </ul>  |
| 第7号<br>平成17年12月8日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険法改正の柱は「予防重視型」システムへの転換-来年4月に法改正が全面施行されます</li> <li>・平成17年10月から介護保険施設などの利用料が変わりました</li> <li>・施設紹介「特養鎌倉静養館」「七里ガ浜ホーム」「鎌倉プライエムきしろ」</li> </ul> |
| 第8号<br>平成18年3月29日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座「元気で長生きぴんころりー-毎日の生活の中の介護予防」報告</li> <li>・4月から地域包括支援センターが開設されます</li> <li>・施設紹介「ささりんどう鎌倉」「鎌倉清和由比」</li> </ul>                             |
| 第9号<br>平成18年6月9日    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動と一緒に「いつまでも元気で」の福祉を(鎌倉市保健福祉部長小川研一)</li> <li>・平成17年度介護保険サービス利用者アンケート結果の概要</li> <li>・ご存知ですか？地域包括支援センター</li> </ul>                          |
| 第10号<br>平成18年11月26日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座「現代医学の忘れ物」・あなたの地域包括支援センターは</li> <li>・介護予防ケアプランって？鎌倉花子さんの場合</li> </ul>   |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 第 11 号<br>平成 19 年 3 月 22 日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉人材養成講座「地域包括ケアシステム鎌倉型を創るー支えあう人のつながりが地域を拓く」</li> <li>・かまくら医療と福祉のネットワーク事業 ・移送サービス一口メモ</li> <li>・介護保険サービスの苦情相談室 平成 19 年 3 月 31 日で電話相談は終了します</li> </ul> |
| 第 12 号<br>平成 19 年 6 月 8 日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民フォーラム報告</li> <li>・平成 18 年度介護保険サービス利用者アンケート結果の概要</li> <li>・施設訪問「稲村ガ崎きしろ」「ふれあいの泉」</li> </ul>   |
| 第 13 号<br>平成 19 年 11 月 27 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小規模多機能型居宅介護」を知ろう！ ・地域密着型サービス 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能型居宅介護施設の紹介</li> </ul>  |
| 第 14 号<br>平成 20 年 3 月 9 日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期高齢者医療と介護保険との連携</li> <li>・「成年後見制度」をご存知ですか？</li> </ul>   |
| 第 15 号<br>平成 20 年 6 月 9 日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民フォーラム「終わりよければすべてよくどのように迎えたいですか、あなたの終末期」映画とトークのつどい」報告</li> </ul>  |
| 第 16 号<br>平成 20 年 11 月 26 日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの福祉のキーワードは「地域」(鎌倉市健康福祉部長 石井和子)</li> <li>・地域の”居場所“をつくりませんか！</li> <li>・新施設紹介「ケアホーム鎌倉深沢」「かまくら愛の郷」</li> </ul>  |
| 第 17 号<br>平成 21 年 3 月 23 日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座「元気で長生き上手な薬の服用法」報告</li> <li>・高齢になっても一人になっても この町で暮らし続けたい…、どうやって地域で暮らし続ける…」</li> </ul>   |
| 第 18 号<br>平成 20 年 7 月 7 日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉と医療の連携(鎌倉市医師会副会長 井口和幸)</li> <li>・認知症？ そう思ったら… ・保険料はどのようにして決まる？</li> </ul>  |

ホームページによる情報提供 <http://www.kamashien.com>

## ● かまくら介護・なび

NPO法人設立と同時に支援機構のホームページを開設しました。その後、平成 16 年の「かまくら福祉資源ネット」研究事業への取り組みを機に、より多くの情報を提供できるようリニューアルしました。ケアプラン作成を依頼できる事業所がわかる「ケアマネ空き情報」を公開し、新たにデイサービスや通所リハビリの空き情報を掲載しています。今後、一層多くの方に利用していただけるよう、わかりやすく役に立つページにしていきます。



### 『介護サービス・なび』の発行

介護保険サービスの受け方や、市内のケアマネジャーのいる事業所を地図とともに紹介した『介護サービス・なび 鎌倉』を平成 15 年度から毎年度作成しています。

(鎌倉市からの受託事業)

この小冊子は市から初めて介護認定を受けた方に配付されています(写真左)。



### 『医療と介護の地域情報なび かまくら』の発行

介護保険サービスだけでなく、医療や様々な生活支援サービスを利用することによって、初めて住み慣れた地域で安心して生活を続けることができます。地域には、どのようなサービスがあるのか、一覧で紹介した冊子を作成しました(独立行政法人福祉医療機構からの助成事業)。2007 年(平成 19 年) 3 月に初版を発行し、同年 10 月に改訂した第 2 版は 1 冊 500 円で頒布しました(写真右上)。



※イラスト/ 溪川ゆう子(アトリエ溪)

## 市民公開講座・市民フォーラムの開催

介護保険をめぐる話題や、サービスをより上手に利用できる方法など、幅広いテーマで講座を開催してきました。毎回、多くの市民の方が参加くださいました。

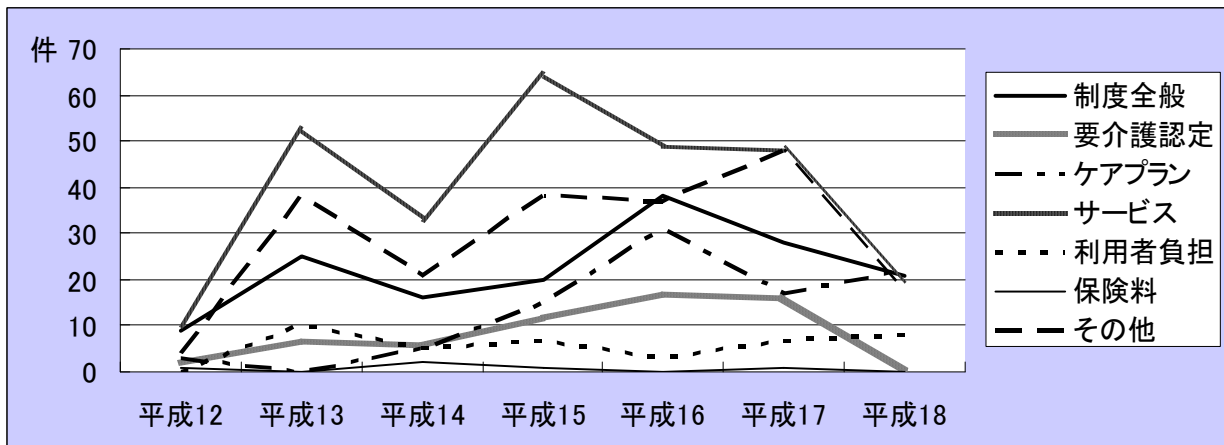
| 開催日(種類)                                 | テーマ  |
|---|--|
| 平成 15 年 6 月 8 日(市民公開講座)                 | 介護保険 上手に使っていますか？                                 |
| 平成 15 年 10 月 4 日(市民公開講座)                | あなたにピッタリのデイサービス、みつかりましたか？                        |
| 平成 16 年 3 月 28 日(市民公開講座)                | 手すり 1 本、用具 1 つで明日の生活が変わる～住宅改修・福祉用具説明会            |
| 平成 16 年 7 月 4 日(市民公開講座)                 | いざっ！という時のショートステイ                                 |
| 平成 17 年 2 月 24 日(市民公開講座)                | どうなるの？これからの移送サービス                                |
| 平成 18 年 3 月 16 日(市民公開講座)                | 元気で長生き ぴんぴんころりー毎日の生活の中の介護予防                      |
| 平成 18 年 7 月 20 日(市民公開講座)                | 現代医学の忘れ物～安心・安全に在宅生活を続けるために                       |
| 平成 18 年 10 月 18 日・11 月 14 日(地域福祉人材育成講座) | 地域包括ケアシステム鎌倉型を創る～支えあう人のつながりが地域を拓く(写真上)           |
| 平成 19 年 3 月 22 日(市民フォーラム)               | 医療と福祉のネットワークで在宅高齢者をどこまで支えていけるか～地域包括ケアシステム鎌倉型を創ろう |
| 平成 20 年 3 月 9 日(市民フォーラム)                | 終わりよければすべてよし～どのように迎えたいですか、あなたの終末期                |
| 平成 20 年 12 月 9 日(市民公開講座)                | 元気で長生き、上手な薬の服用法～自分の薬に関心を持ってみませんか！？               |



## 介護保険サービスの質の向上のために

### 介護保険サービスの苦情相談室と施設訪問

利用者が直接サービス提供事業者などに言いにくい苦情などを事業者や施設、行政に伝える橋渡し役として、平成 12 年 10 月に介護保険サービスの苦情相談室を開設しました。5 名の相談員が 2 名一組で月・水・金で電話や面談で相談を受け付けたほか、平成 13 年からは、市内特養・老健施設を訪問し入所者の意見を施設につなげるお手伝いを始めました。また相談や活動の内容を「輝く介護」で毎号報告しました。



平成 18 年度に地域包括支援センターができたことにより、19 年度からは電話相談業務を終了し、現在は、8 名の相談員が、市内 8 箇所の特別養護老人ホームと 6 箇所のグループホームを訪問し入所者等の相談を受けています。また、年 1 回、施設との意見交換会を開催し訪問の効果向上に努めています。平成 12 年度から 18 年度までの電話相談内容の状況はグラフのとおりです。



### 相談室の移り変わり

土井 稔

永年勤め上げたサラリーマン生活から解放され、金持ちならぬ時持ちになって、心新たに何かの生きがいを模索し始めていた頃、たまたま広報かまくら(平成 12 年 6 月 15 日号)の「介護保険サービスの苦情相談調査員募集」の記事が目にとまりました。介護については本や新聞で見る程度の知識でしたが、母の介護を通して知った数々の思いもあって、思い切って応募しました。どきどき冷や汗の連続の面接の後、忘れかけておりましたところ、合格の通知が届きました。アンビリバボ！！ヤルズの自信が湧いて来ました。後で知った事ですが、応募者は 40 人、合格者は男性 2 人、女性 3 人の 5 人でした。

5 名は「さわやか福祉財団」が開催する養成研修を受けボランティア登録をし、修了証をもらいました。この研修会には、全国から相談員が集まり、同年 10 月には 850 人が派遣される見込みとの事でした。当時、同事業を実施する市町村は全国の約 5%程度で、先駆的な試みでした。

相談内容は利用の方法、制度に対するものから、サービスの内容や質について、また事業者側からの相談もあり様々でしたが、平成 19 年に市内 5ヶ所に地域包括支援センターが設置されたため、相談室での電話による相談受付は終了しました。現在は、厚生労働省(旧厚生省)が始めた介護相談員等派遣事業である、施設利用の高齢者から要望や苦情を聞いて、市や事業者に改善を働きかけるという活動が中心となっております。私も相談員を退き、現在は、支援機構の監事を務めている今日この頃です。



### 介護保険サービス利用者アンケート調査

在宅で要介護認定を受けていた方の約 10%を対象に、「介護保険サービス利用者アンケート調査」を実施しました。サービスの満足度や、欲しいサービスなどを調査し、その結果を事業者やケアマネジャー等のサービスの質の向上に役立ててもらいました。アンケートは平成 12 年から 18 年まで実施し、調査結果の概要は、『輝く介護』でお知らせするとともに、ホームページ上に公開しています。

(URL: <http://www.kamashien.com/kamakura2004/18ank/18ank.html>)

## 介護保険事業者・市民などのネットワークづくり

### 鎌倉ケアマネ連絡会

介護保険サービスのキーパーソンであるケアマネジャーのレベルアップのために、平成 13 年 6 月にケアマネ連絡会を設置しました。以下のような研修会を開催し、毎回多数の参加者があります。現在は個人登録制を導入し、名の登録があります。また平成 18 年から「ケアマネ手帳」を作成、20 年からは広報紙を発行、月例勉強会「サロンみちくさ」の開催など活発な活動を行っています。

平成 13 年(4 回開催)/・訪問介護サービスの単位 ・ケアマネ業務の標準化について

- \* 平成 14 年(6 回開催)/・帳票の確認 ・口腔ケア(医師・歯科医師との意見交換) ・平成 13 年度利用者満足度調査結果から見えてきたこと ・訪問介護サービス提供責任者を加えての話し合い
- \* 平成 15 年(6 回開催)/・介護保険制度の見直し ・モニタリング(その方法と書式) ・介護保険サービスの苦情相談室相談員との交流 ・保険福祉事務所の役割と虐待の事例について
- \* 平成 16 年(7 回開催)/・福祉輸送 ・《プロセスにのっとったケアマネジメント》の考え方について ・ICF の考え方について

- \* 平成 17 年(6 回開催)/・ICF を用いたケアプラン作成 ・適正な介護保険サービスを目指して(訪問介護) ・低所得者に対する補足給付について しっかり聞いてニーズを探そう！ 介護予防プランを作ってみよう
- \* 平成 18 年(3 回開催)/地域包括支援センターの運営について 要支援者に関わる介護予防支援業務について ケアマネとして在宅高齢者をどう支えるか
- \* 平成 19 年(6 回開催)/・介護支援専門員資格更新のための更新研修・専門研修 ・小規模多機能型居宅介護 ・ケア目標の共有化(ヘルパーの目、ケアマネの目) ・記録の重要性について
- \* 平成 20 年(3 回開催)/・モニタリング・評価 ・ケアマネジメントの原点を見つめよう ・アセスメント力を高めよう(事例を通して個々のアセスメントの視点を見直す)
- \* 平成 21 年度(これまで 1 回開催)/・介護支援専門員と訪問介護事業所との連携について

### ケアマネ連絡会の発足を振り返って

清田 敏子



平成12年にスタートした介護保険は新しい社会保険で、その目指すところは画期的なものでした。中心的な役割を果たすケアマネジャーには社会からの期待も大きく、使命感や希望に燃える仕事となりました。発足時は業務をマスターし、ご利用者のご期待に応えることに精一杯の毎日でしたが、一段落した翌年支援機構の活動の一つとして「鎌倉ケアマネ連絡会」がスタートしました。ケアマネジャーの煩雑な業務を如何に簡略化するか、スキルアップの為にはどのような研修をしたら良いか、お互いや他職種との連携・親睦をどう図ったら良いのか等忙しい仕事の合間、世話人さん達はよく笑いよく話し合いました。

10年過ぎた現在、会員数も増えて県レベルへの情報発信など活動も活発になってきていますが、これも発足当時から「連絡会」の周知・啓蒙に苦戦しながら、めげることなく継続に勤めてきた現理事長や世話人さん達の情熱があつたればこそと、19年まで世話人代表を微力ながら勤めさせて頂いた私はささやかに自負しております。地域包括ケアが求められる今後、ケアマネジャーの資質は益々問われるでしょう。支援機構・ケアマネ連絡会の果たすべき役割は大切です。何かお役に立てたらと願っております。

### いきいき生活プロジェクト(かまくら福祉資源ネット)

介護保険では提供できない様々な在宅高齢者の生活ニーズを解決するために、介護保険以外の地域サービスなどの情報を一元化し、活用していく仕組みを「福祉プラットフォーム」と名づけ、平成 14 年度・15 年度に全国社会福祉協議会の受託事業として実験を行いました。このときは、支援機構のホームページ上や鎌倉生涯学習センターに掲示板を設け、在宅高齢者からはサービスニーズの情報を、一方、地域でサービスを提供できる人は手助けできる情報を寄せてもらい、両者のマッチングを試みました。

### 医療と福祉のネットワーク会議

介護保険に関係する医療関係者と居宅介護事業者、福祉関係者との連携を図るため、平成 18 年 2 月に第 1 回ネットワーク会議を開催しました。これまで、10 回の研修会や講演会を開催し、毎回、100 名から 150 名が参加し、様々な職種が意見や情報を交換することで新たなネットワーク作りを実現しています。

#### <これまでのテーマ>

|                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 第 1 回 平成 18 年 2 月 3 日   | 介護保険に関わる医療と福祉の懇談会       |
| 第 2 回 平成 18 年 5 月 23 日  | 医療関係者とケアマネの連絡調整会議       |
| 第 3 回 平成 18 年 11 月 14 日 | 「地域包括ケアシステム鎌倉型の構築を目指して」 |
| 第 4 回 平成 19 年 2 月 13 日  | 各職種による模擬サービス担当者会議       |
| 第 5 回 平成 19 年 10 月 18 日 | 医師を囲んでのグループディスカッション     |
| 第 6 回 平成 20 年 2 月 20 日  | 講演「後期高齢者医療制度と介護保険」      |
| 第 7 回 平成 20 年 11 月 4 日  | 「地域の中でのより良い連携を目指して」     |



|                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 第8回 平成21年 3月23日  | 「介護保険の報酬改定と今後の職種間連携について」  |
| 第9回 平成21年 7月29日  | 「多職種連携と服薬管理」              |
| 第10回 平成22年 2月24日 | 「食支援を考えるー各職種が考える食べるということ」 |

### 医療と福祉のネットワーク構築に取り組んで

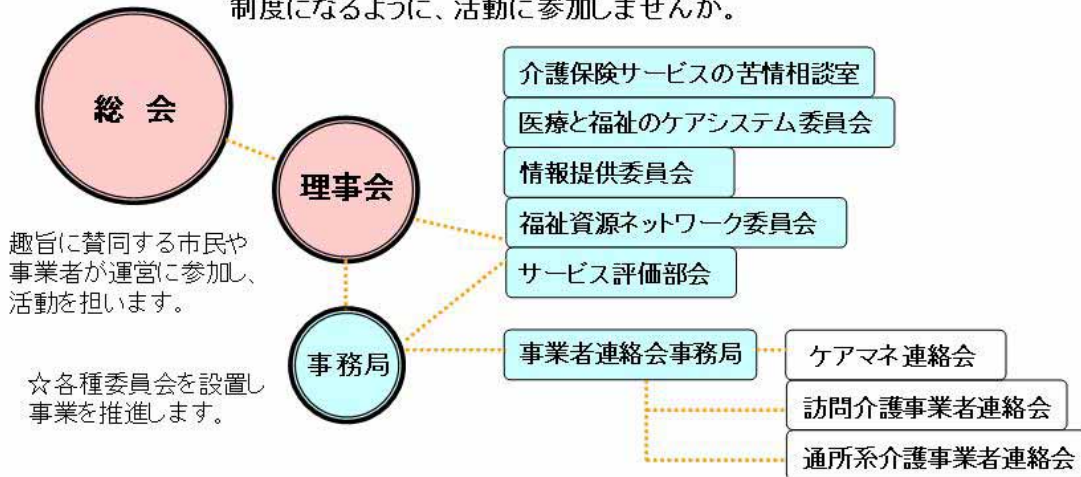
鶴岡 明



私の「支援機構」との係わりは、平成17年6月に理事に就任して以来のことです。それまで地元の歯科医師会で、訪問診療の窓口である地域医療部門を担当するなかで、介護保険制度を実のあるものにしてゆくには、いわゆる医療系の方々と福祉系の方々の相互理解が欠かせないという思いを抱いておりましたので、お引き受けした次第です。そして、双方の方々の連携を築いて行くための「医療と福祉の地域ケアシステム検討委員会」の担当となりました。そして、この委員会に参加していただいた多くの委員さん達と一緒に「医療と福祉のネットワーク会議」を立ち上げたのです。その後、この会議には、毎回100人を超える参加者があり、当初少なかった医療系の方々の参加が次第に増えてきており、当初目指した両者の連携は一定の成果を挙げていますが、まだまだ不十分と思っております。その原因の一つは、医療はこれまでの歴史の中でほぼ完成されたシステムが存在しており、あえてそこから踏み出さなくとも済んでしまう土壤がある一方、介護保険制度はまだ10年の歴史しか無く、試行錯誤を繰り返しながら成熟してゆく段階にあるからだと思います。そのため、今後はより良いサービスを提供できるようにするためにも、特に医療系の方々のより一層のご理解をお願いしたいと考えております。

## かまくら地域介護支援機構の会員になりませんか。

わがまち鎌倉の介護保険が、利用しやすい制度になるように、活動に参加しませんか。



| 種別       | 年会費                         | 内容  |
|----------|-----------------------------|---|
| 正会員(個人)  | 5,000円～ (1口以上)              | ● 総会の議決権を持ちます。<br>● 運営に参加し共に活動を担っていただきます。 |
| 正会員(団体)  | 10,000円～<br>(1口5,000円 2口以上) |   |
| 賛助会員(個人) | 2,000円～ (1口以上)              | ● 財政的に支援していただきます。<br>● 活動への参加もできます。       |
| 賛助会員(団体) | 10,000円～<br>(1口5,000円 2口以上) |   |